

一般社団法人
日本動機づけ面接協会
(JAMI)
第9回大会

プログラム・抄録集

日時◆2021年2月20日(土)10:00~16:00

会場◆オンライン

主催◆一般社団法人日本動機づけ面接協会

ご 挨拶

第9回日本動機づけ面接協会年次大会の開催にあたって

京都大学医学部精神科神経科
挾間 雅章

「お忙しい中、日本動機づけ面接協会（JAMI）第9回大会にご参加いただきありがとうございます。」と書くのは2回目になってしまいました。というのも、新型コロナウイルスの感染拡大により、昨年の大会を直前に中止せざるを得なかったためです。参加を予定されていた皆様や発表をご準備いただいていた方々に大変ご迷惑お掛けしたことを、深くお詫び申し上げます。

さて、近年は全国各地で動機づけ面接（以下、MI と略します）のワークショップや勉強会が開かれるようになっていますが、その大半が1年前からオンラインに移行しました。今回の大会の企画にあたって、オンラインでの実施に迷う余地はありませんでした。そこで、オンラインのメリット・デメリットを共有し、より効果的なトレーニングを議論・検討する場として「オンラインでのMIのトレーニング」というシンポジウムを企画しました。

また、講習会が全国で開催されるなどMIの裾野は確実に広がっていますが、一方で特定の組織への導入や定着には別の困難があることも見えてきました。これはMIに限った話ではなく、「これこれの問題にこれこれの介入が有効だ」というエビデンスがある」と示されていることと、そのような介入が世の中で普通に行われていることの間には大きなギャップがあります。昨年の大会ではティム・ガデン先生に実装研究のワークショップをお願いし、協会のホームページで録画をご覧になった方もおられることでしょう。今年の大会ではそれに代わるものとして、「MI 普及から実装へ」と題したシンポジウムを企画しました。

2つのシンポジウムには、MIのコミュニティー外から講師の先生方をお招きしました。演劇家の蓮行先生は「劇団衛星」を主宰しながら、コミュニケーション教育のプロフェッショナルとしても活躍されています（「コミュニケーション力を引き出す 演劇ワークショップのすすめ」PHP新書）。国立がん研究センターの島津太一先生は、日本における実装研究を文字通り推進しておられます。お二人の先生方の専門性と、MIのコミュニティーで活躍されている発表者・座長の先生方の専門性が重なり、大きなシナジーが生まれることを期待しております。

リアルな会合の楽しみとして、久しぶりに会う人と立ち話をしたりご飯を食べに行ったり、といったインフォーマルな交流の機会があります。これを少しでもオンラインで再現できるよう、わずかですが懇親の場を設けました。楽しんでいただいたり、「自分だったらこんな風にアレンジするな」と考えを巡らせたりしていただければ幸いです。

「MI を修めたい、広めたい」という同志が全国から集う JAMI 大会です。参加者の皆様にコミットしていただき、明日からの仕事や生活に役立つ新たな発見を持ち帰っていただけるような会となることを心から祈っております。

プログラム

・10時～12時

開幕

大会長挨拶

シンポジウム「オンラインでの動機づけ面接のトレーニング」

座長 瀬在泉（防衛医大看護学科）

- (1) オンラインでのトレーニングを実際に行った方、
トレーニングを受けた方の実践報告（45分）
 - ・瀬在泉（防衛医大看護学科）
 - ・濱田佳代子（株式会社ライフジャパン）
研修を提供する立場から
 - ・藤本祥和（ラジオディレクター）
2020 オンライン TNT に参加
- (2) 講演「オンラインとオフラインのコミュニケーション
の違いを考える」（40分）
 - ・蓮行（演劇家）
- (3) ディスカッション（30分）

・13時30分～14時

交流企画

「ブレイクアウト・ルーム機能を使って少人数のグループに分かれ、自己紹介やフリーディスカッションをしていただきます。参加を希望される方は、13時30分までにZoomにお入りください。」

・14時～16時

シンポジウム「動機づけ面接 普及から実装へ」

座長 今井淳司（都立松沢病院）

- (1) 講演「実装科学とは何か」（30分）
 - ・島津太一（国立がん研究センター）
- (2) 動機づけ面接の普及・実装の実践報告（45分）
 - ・川合厚子（公徳会トータルヘルスクリニック）
 - ・小松知己（沖縄協同病院）
 - ・山田英治（東京家庭裁判所）
- (3) ディスカッション（30分）

閉幕

午前の部

シンポジウム「オンラインでの動機付け面接でのトレーニング」

「動機付け面接を練習し続けるために」

防衛医科大学校
医学教育部看護学科
瀬在 泉
(MINT メンバー)

「2020年2月20日(木)：急な連絡で申し訳ありませんが、明日2月21日のとこやま会は、コロナ感染等々のことを考慮し、中止とさせていただきます。」ちょうど1年前、このメールを発信した時でさえ、今の状況は夢にも思っていませんでした。その後4月11日にオンライン上の近況報告会を経て、月1回ペースでクローズな勉強会を続けています。また、昨年5月から12月にかけては、有志の方々と一緒にオープンな情報交換会やワークの練習会をオンラインで開いてきました。それらは、「トレーナーの私」というよりも「MI学習者である私」が「知りたい」、「勉強したい」、「繋がりたい」という一心からのものでした。

その経験を通し、「会話」に注目したMIの特徴を活かした勉強スタイルの一つとしてオンラインの活用は非常に有用であるし、先の見通しが持てない中「望み」を与えてくれるものと実感しています。シンポジウムでは、この1年を振り返りながらMIを練習し続けることを助けてくれそうなささやかな工夫やワークなどを共有し、皆様と情報交換しながら更に未来への「閃き」を頂けたら幸甚です。

連絡先：izumis.55hana@gmail.com

「オンラインで領域を超える機会を創造すること」

株式会社ライフジャパン
研修グループ
濱田佳代子
(専任カウンセラー、MINT メンバー)

私は2015年TNT Japanに参加してMINTメンバーとなりました。以後産業分野で労働者支援のための面接でMIの普及に取り組んでいます。

まずは在住する熊本を中心に、管理職や産業保健職などに向けてのMI研修会から始め、2019年からは厚労省の認定を受けた「キャリアコンサルタント更新講

習」を九州管内から開始しました。いずれは全国的な普及活動をめざし、東京近郊で活躍するカウンセラーやキャリアコンサルタントと MI 学習者との交流を目的とした食事会等を企画しネットワーク形成を図っていました。さらに「寛容と連携の日本動機づけ面接学会」の下部組織として 2020 年 1 月「産業・キャリアカウンセリング部会」を設立しました。

しかし昨年 3 月以降上京が叶わなくなり、対面で築いたネットワークを維持するためにオンラインでの交流会を始めました。「キャリアコンサルタント更新講習」もオンラインでの講習へ切り替えました。これらが転機となり「産業・キャリアカウンセリング部会」と「矯正部会」のハイブリット合同研修会を企画しました。それぞれの<領域>を超えて共通の課題に向き合う研修会を開催できたのは、オンラインだからこそと考えています。オンラインは個人の無意識の枠も広げてくれる可能性があります。

連絡先：k.hamada@jinseikai.or.jp

「距離 0（ゼロ）の時代にできること」

藤本祥和

(ラジオディレクター・REBT 心理士・MINT メンバー)

いよいよ「距離 0（ゼロ）の時代」になったなあと思いました。

歴史を振り返ると、原始時代は村の長老から学ぶしかありませんでした。書物が誕生して先人から学べるようになり、20 世紀前半にはラジオやテレビ、後半にはインターネットが普及して、誰もが双方向で交流できるように。そして 2020 年代は、オンラインで顔を見ながら学ぶことが当たり前の時代になりました。

「距離 0（ゼロ）の時代」、これが私たちの現在地です。

私自身、昨年思いきって TNT に挑戦したところ、会場は米国アルバカーキから史上初のバーチャル開催に変更、日本時間の深夜に自宅から参加することに！ 一方で、最近自分でも市民向けのオンライン研修を行うようになりました。

つまり、「世界の先生から学ぶ距離 0」×「身近な人と学びをシェアする距離 0」＝「世界とご近所の距離 0」の時代になったと実感します。

そんな時代に私たちができることは何か？ ささやかながら、考えるきっかけが提供できれば嬉しいです。

ウェブサイト：www.kikukoto.net 連絡先：fujimoto@kikukoto.net

講演：「オンライン」と「オフライン」のコミュニケーションの違いを考える

劇団衛星
蓮行

「相手の反応が読みとりづらい…」

「よくわからないけど、なんだか居心地が悪かった…」

オンラインのコミュニケーションが増え、もどかしさを感じているひとは多いのではないのでしょうか。一方で、「オンラインの方がむしろやりやすい」というひともいると思います。この違いはどこから生じるのでしょうか。

参加者の皆さんのなかには、オンラインでのトレーニングに既に挑戦されている方もいれば、あまり経験したことがない方もいらっしゃると思います。また、既に挑戦されている方も、オンラインのコミュニケーションを俯瞰的な視点で観察した経験がある方は少ないのではないのでしょうか。

そこで、このセッションでは私の“演劇人”としての強みを生かして、「架空の設定で、専門家として一般の方の相談に乗る」という演劇ワークショップを体験していただきます。カウンセラー、クライアント、観察者という役割をぐるぐると回していきながら、みなさんと共に、オンラインのコミュニケーションについて考えていきたいと思います。

午後の部

シンポジウム「動機づけ面接 普及から実装へ」

講演：実装科学とは何か

国立がん研究センター
社会と健康研究センター
行動科学研究部 実装科学研究室
島津 太一

実装科学 implementation science とは、エビデンスに基づく介入（evidence-based intervention、EBI）を、効果的、効率的に日常の保健医療福祉活動に組み込み、定着させる方法について一般化された知識を得ようとする学問領域である。EBI を現場に実装しようとするときには、実装の場の文脈を知ることが重要である。文脈とは、実装したいプラクティスが自分たちで開発したものか、他所で開発されたものか。保健医療従事者は、そのプラクティスの有効性、必要性を認識しているか、実施できる時間的余裕があるか。患者、家族、政策立案者はそのプラクティスを必要としているか。組織のリーダーはそのプラクティスの実施を奨励するか、などである。これらの文脈に合わせた戦略を考え、その有効性を実装研究により検証していく。本講演では、実装科学における EBI 実装の枠組みを皆さんと共有したい。

動機づけ面接の普及・実装の実践報告 禁煙

社会医療法人公徳会トータルヘルスクリニック
川合 厚子

日本の各地域において「禁煙治療のための標準手順書」に基づいたタバコ依存症治療や支援ができるヘルスケア専門家やサポーターを育成するために、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、心理学カウンセラーなどのヘルスケア専門家等を対象として全国7か所で1日コースのセミナーを開催した。特に精神科における禁煙推進を目的とし、その講義とあわせて動機づけ面接（以後MI）の3時間ワークショップを行った。「グローバルブリッジ・ジャパン・プロジェクト」からファンドを得て、日本禁煙学会「禁煙治療と支援委員会」が主催した。幅広い職種からなる605人が参加した。セミナー前後とフォローアップのアンケートでは、MIワークショップの効果は高く、セミナー後3か月でも役立ち度87.2%、活用度75.6%と高かった。精神科における禁煙推進についての講義の役

立ち度や活用度は、MI に比して低かったが、一定の理解と効果は得られたと考えられた。

動機づけ面接の普及・実装に関する実践報告～アルコール依存症～

沖縄協同病院
小松知己

動機づけ面接(MI)のアルコール臨床分野における普及・実装は、そもそもこの分野で「実装科学」というフレームワークに基づいて普及や実装の戦略を考えてきた支援者がほとんど皆無であった為に(恥ずかしながら筆者も…)、現在も phase 1 実装研究が散発的に実施されている程度である。

筆者の実践も沖縄県内の各種依存症横断的な援助職の研究会を組織し、それに連動してのMI研修会(隔月1回)開催を軸としており、戦略的ではなかった。他には、糖尿病臨床におけるMI普及の突破口を開いたこと、国の第2期アルコール対策基本計画に「動機づけ面接」の文言を盛り込んだこと程度である。

MIの日本への紹介は、松島義博・後藤恵の両先生によるMI-1日本語訳『動機づけ面接法～基礎・実践編』の2007年刊行を端緒として、星和書店から訳書が次々に刊行されたことが確かに大きかった。が、その後の跛行的普及(特にアルコール臨床分野での)は、訳書に基づく研修会の開催が先行したことも1つの要因と考えられる。JAMI創設者の原井宏明先生が日本人MINTie第1号となられたのが2003年だが、アルコール臨床分野での本格的普及は2015年のTNT-Japanの開催まで待たねばならなかった。

現在、日本のアルコール臨床分野では、教育用資材は多種多様に入手可能となり、専門職への研修の均てん化も一定程度は進んできている。が、国民皆保険制度において社会実装を本格的に進めるには、「医療技術評価分科会」での『仕分け』を乗り切って中医協答申を経て診療報酬化されることが必須であり、多施設共同の比較検証試験の実施が必要と考えられる。

司法福祉領域における動機づけ面接の普及と実装

東京家庭裁判所
チェンジトーク・ジャパン
山田 英治

動機づけ面接は、アルコールの問題を抱えたクライアントとのやりとりに始まり、その後、司法福祉領域においても用いられ、現在では、主要な介入法となっている。

本シンポジウムでは、司法福祉領域の実践例を紹介し、司法福祉領域における動機づけ面接の普及の歴史を概観した後、普及と実装の実情及び今後の展望について話題提供する。本シンポジウムで話題提供する主な目的は、司法福祉領域における動機づけ面接を用いることの利点と特徴を確認し、実務現場での実践を普及

させ、実践の質を更に改善するための工夫について検討するきっかけにすることである。

第9回年次大会

主 催：一般社団法人 日本動機づけ面接協会